

令和5年度自己評価計画書（中間評価）

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び2学期以降の取り組み（改善策など）
1 不断の授業改善により、生徒の主体的な学びを高め、3年間・5年間を見通した学力・技術の向上を図るとともに、国家試験全員合格を目指す。	① ICT機器の活用や授業形態を工夫することで、生徒の主体的な学びを確保する。	「ペア学習、班活動、話し合い等、協力して学ぶ機会を設けている」と評価した生徒の割合が A 80%以上 B 75%以上 C 70%以上 D 70%未満 である。	先生は協力して学ぶ機会を設けていると評価した生徒の割合 1年生 81.3% 2年生 81.2% 3年生 87.6% 専攻科 88.6% 全 校 84.4% 評価 A	全校の肯定評価は昨年度の最終評価より1%増加した。習得した知識・技能を深める協働学習を意図的に取り入れている。今後、1・2年生ではICT機器の活用を図り、生徒の学びの段階を踏まえたテーマ学習や発表の場面を積極的に設定する。3年生では、問題解決的な学習や知的好奇心を喚起する課題を適宜取り入れることにより生徒の主体的な学びを促す。
	② 協働して課題の解決などに取り組む学習活動を通して生徒の主体的な思考を促す。	「自分の考えを文字や発言で表現したり、他者の意見をしっかりと聞いたりしている」と評価した生徒の割合が A 85%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 75%未満 である。	自分の考えを表現したり、他者の意見をしっかりと聞いていると自己評価した生徒の割合 1年生 74.6% 2年生 84.1% 3年生 71.6% 専攻科 77.9% 全 校 77.3% 評価 C	全校の肯定評価は昨年度の最終評価より2%増加した。他者と対話し、思考を深めるペア・グループ活動を意図的に取り入れている。今後、1・2年生ではペア・グループなどで対話する場面、生徒が思考する場面を計画的に取り入れる。3年生では、習得した知識を活用し、思考した内容を相手に伝え深め合う場面を積極的に設定し「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて言語活動の充実を図る。
	③ 専門教科の知識・技術の確実な定着を図るため、目標レベルに達するまで補習・個別指導を実施する。	偏差値40未満の生徒が A 0人 B 1～2人 C 3～4人 D 5人以上 である。		2、3年生は9月と1～2月に、1年生は2月に全国模試を実施予定。結果が出次第報告する。

			<専攻科1年生> 基礎力を確認する全国看護師国家試験演習の偏差値40未満の生徒が A 0人 B 1人 C 2人 D 3人以上 である。 <専攻科2年生> 全国看護師国家試験演習の偏差値40未満の生徒が A 0人 B 1人 C 2人 D 3人以上 である。	<専攻科1年生> 基礎力を確認する全国看護師国家試験演習の偏差値40未満の生徒が 2人 評価 C <専攻科2年生> 全国看護師国家試験演習の偏差値40未満の生徒が 0人 評価 A	<専攻科1年生> 7月15日実施の基礎力全国看護師国家試験演習の学校偏差値は56であった。偏差値40未満の生徒は2人で、偏差値40以上～50未満の生徒は5人いる。基礎力を測定する「疾病の成立」の偏差値が51.6と低めである。2学期はクラス全体として苦手科目の取り組みを行う。合わせて、偏差値の低い生徒に対して個別指導を早期より行う。 <専攻科2年生> 7月実施の全国看護師国家試験演習で、学校偏差値は60.3であった。偏差値40以上～50未満の生徒は1人であったが、偏差値が低い生徒4名に対し、夏期休業中の補充学習と学習方法の指導を行った。今後も個別指導を継続していく。また、全体の傾向として状況設定問題の偏差値が56.5とやや低いため全体指導を行う。
	④	<1年生> 課題に主体的に取り組む姿勢が身につくように、課題の意義を納得できるように提示したり、個別指導を行ったりする。 <2年生> 各種検定に合格する経験を重ね、向上心を持って学習できるように、1	<1年生> 課題を提出する生徒の割合が A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満 <2年生> 検定に1つ以上合格している生徒の割合が A 100% B 90%以上	<1年生> 7月の課題を期限内に提出している生徒の割合が 85.2% 評価 C <2年生> 各種検定実施の2学期以降に評価する。	<1年生> 締め切りまでに課題を提出できている生徒の割合は、4月92.6%、5月95.1%、6月90.7%、7月85.2%である。働きかけにより、全員が課題を提出することができているが、期日を守って課題を出すことが苦手な生徒が固定している。きめ細やかな個別指導を継続する。また、クラス全体に対して、課題の意義を再確認し、主体的に学ぶ姿勢につなげる。 <2年生> 2学期以降に実施される各種検定に合格できるように、個別に目標を設定して指導を行う。

		人ひとりに応じた目標設定を行う。 <3年生> 介護福祉士国家試験全員合格に向けて、小テストや個別指導を行う。	C 80%以上 D 80%未満 <3年生> 国家試験演習等で個人得点率が65%未満の生徒が A 0人 B 1人 C 2人 D 3人以上 である。	<3年生> 国家試験演習等で個人得点率が65%未満の生徒が 17人 評価 D	<3年生> 7月26日実施の第4回介護福祉士国家試験演習では、平均点が80点（125点満点）、得点率は64%であった。得点率65%に満たない生徒が17人、その内、国家試験の合格基準である60%（75点）に満たない生徒も6人いる。2学期はクラス全体として苦手意識のある科目や、事例問題の取り組みを行う。併せて、得点率の低い生徒に対して早期より個別指導を行う。
--	--	--	---	--	---

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び2学期以降の取り組み（改善策など）
2 本校の学びを通して、看護師・介護福祉士に求められる健康な心身とコミュニケーション力の育成を図る。	① 「田鶴浜高校いじめ防止基本方針」に基づいて、いじめのない学校作りを推進する。	生徒アンケートで「互いの人格を尊重し、いじめを絶対に許さないという意識」について、「大いに高まった」と「高まった」の回答が A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満 とする。	夏休み明けアンケートの結果、「いじめを絶対許さないという意識」が「大いに高まった」と「高まった」の回答の割合が 97.7% A評価	「いじめを許さないという意識」が昨年度の95.6%から97.7%と2.1ポイント上がった。「高まらなかった」の理由には「いじめを意識するきっかけがなかった」と4名が回答している。「許さない」の意識が持たれるのは授業時（46.2%）と講演会等（52.6%）で大半を占めていた。いじめ撲滅の意識を持たせるためには、授業や講演会等で自分の行動を振り返り意識させる時間を設けることが大切で、今後も相談課と連携を取りながら生徒への働きかけを続け、未然防止に努める。
	② 立ち止まって丁寧に挨拶をすることができるよう継続指導する。	保護者アンケートで「立ち止まって挨拶している」の回答が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 とする。	7月実施の保護者アンケートでは「立ち止まっての挨拶が来ている」も回答は 90.7% 評価 A	昨年度の同質問の回答は87.1%、一昨年度は87.9%であった。コロナ規制緩和後、少しずつ積極的に挨拶をするという様子があり、改善が見られる。学校全体で取り組んでいることが生徒に伝わっている。9月以降も生徒の様子を観察しながら、学校全体で自発的に挨拶ができる環境作りへの取組を続ける。

	③	運動行事の事前練習やケガ予防、放課後活動の活性化のため、合同部活動を実施する。	合同部活動後のアンケート結果で満足と答えた生徒が A 80%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満 である。		今後実施予定。
	④	足本来の機能を取り戻すことを目指し、Foot 活プロジェクトに取り組む。	歩行解析デバイスを用いたAYUMIEYE 測定を2回実施し、総合点数を夏と冬で比較する。冬の点数が夏より向上している生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 である。	1回目の測定は7月に実施。2回目の測定は12月実施予定。	2学期以降の体育授業では、Foot 活体操やFoot 活ラダーを実施することで、歩行改善や正しい姿勢づくりを目指していく。

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び2学期以降の取り組み（改善策など）
3 本校の特色ある教育活動や、地域の医療・福祉を支える人材の必要性等の広報に努め、志願者の増加を図る。	① 体験入学、学校説明会の内容を充実させるとともに、情報誌、ホームページ、動画などを活用し本校の魅力を発信する。	一般入試の志願倍率（学校倍率）が1.00倍を A 上回った。 B 同程度だった。 C 下回った。 D 大きく下回った。		年度末に評価する。

		② 本校の特色ある取り組みや学校の様子を継続的かつ魅力的にホームページで発信する。	ホームページの月の平均閲覧数が4月と比較して、 A 1. 5倍上昇した。 B 1. 3倍上昇した。 C 変わらなかった。 D 下回った。	4月平均閲覧数719 7月平均閲覧数478 評価 D	各委員会が動画を作成したりメール配信でホームページ更新を連絡したりするなど広報活動は前年度と比較して大変積極的に行っている。しかし、4月は新入生や保護者が頻繁に閲覧していたため、4月と比較した場合閲覧数が減少している。ホームページの内容を充実させるだけでなく、ホームページを関係者以外に閲覧してもらうための工夫が必要である。
--	--	---	--	--------------------------------------	--

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び2学期以降の取り組み（改善策など）
4 GIGAスクール構想に基づいた教職員・生徒のICT機器の利活用を進めると共に、業務の効率化。多忙化の解消に努める。	① 時間外勤務を減少させるため、ICT活用の定着を図りながら業務の効率化を進める。	具体の取組を積極的に進め、一月あたりの時間外勤務時間が45時間未満の教員の割合が、 A 75%以上 B 65%以上 C 55%以上 D 55%未満 である。	4月～7月までの時間外勤務の平均が45時間未満の教員の割合 62.1% 評価 C	一月あたりの時間外勤務時間が45時間未満の教員の割合は4月57.6%、5月51.5%、6月63.6%、7月75.8%、であり、昨年度とほぼ同じ割合となっている。増加傾向が続いているが、今後も業務の平準化や見直しを推進しながら、超過勤務時間の減少を図る。